

事業名【担当課】

中央図書館事業【中央図書館】

外部評価実施者からの意見

中央図書館事業の説明を聞き、市民の図書館利用者数の増加や、子どもを対象とする図書の充実やイベントの実施、連携機関への図書の提供、ボランティアとの協働など、これまでの取り組みについて評価したいと思う。不登校の生徒のための居場所づくりや外国人利用者を対象とした図書の整備、また中高生に魅力的な図書等のさらなる充実等、今後の試みにも期待したい。

一人あたりの貸出図書を10冊に増やす計画との説明があった。施策内容の見直しを行う際には、その都度、現在の目標値の考え方が施策内容に合致しているか点検する必要がある、必要に応じて目標値の見直しが必要である。

本施策の中間アウトカムである「貸出点数や読書機会を増やす」取り組みから、最終アウトカムの「市民の交流の場ができる」に繋げる具体的な施策が重要と考える。

業務効率や蔵書スペースの観点から、デジタル化を進めるべきと考える。

図書館が、読書に親しむことのできる「市民の交流の場」となるためには、成果指標として、「市内利用者の貸出点数」だけでは、十分ではないと思われます。

特に来年度から一人当たりの貸出冊数を5冊から10冊に増やす予定とのこともあり、貸出数の増加が見込まれること

から、過去との比較が適切にできないのではとも思います。

よって、実際に図書館を利用して本を読んでいる人が増え、読まれた本の数も増加していかないと、事業の成果が出たとは言いがたいと思います。

なお、一方で、図書館に係るボランティア（読み聞かせ、蔵書の修理保全等の維持管理、等）の方が増えている点につきましては、この事業の成果であると思います。

今後、市民ボランティアの方々との協働を一層推進されるとともに、移動図書館を始めとする地域や各種施設への巡回サービス等の実施も検討していただくなどして、読書に親しむことのできる「市民交流の場」となっていただければと思います。

本にICチップ搭載のシステム化と自動貸出し器3基で管理体制は充実しています。

R4総貸出し冊数約48万冊で、その内30%の14.6万冊が長久手市の隣接地域の皆様に貸与しているとのことです。

設立以来31年間経過し新市長の施策の中にあります<中央図書館の分館を創設>に励んでください。

担当課対応状況

・成果指標の設定が「市内利用者の貸出点数」だけでは十分ではなく、貸出冊数が令和6年度から5→10冊になるため過去との比較が適切にできないのではないかという意見を受け、成果指標を人口一人あたりの市民貸出点数とすることを検討しています。

・「貸出点数や読書機会を増やす」取り組みから「市民の交流の場ができる」に繋げる具体的な施策が重要であるという意見を受け、読書機会を増やす取り組みとして、ブックスタート事業におけるブックスタートパック（絵本、赤ちゃん向けおすすめ絵本リスト、布バッグ）の配布を、令和6年4月から長久手市保健センターの3～4か月児健康診査で実施する予定です。健診対象者の9割以上が健診を受けており、より多くの親子へ啓発が可能です。ブックスタートは赤ちゃんと保護者が絵本を介して、心ふれあうひとときを持つきっかけを作る活動であり、読書や読み聞かせ、図書館への来館機会の増加の効果を期待しています。